

## 『本当の強さとは自分の弱さを認めること』

## 〈登場人物〉

- 榊林欽子 (にればやしきんこ) 世界的なブランド会社「スカーレットバルーン」の創始者。代表取締役社長だったが、78歳にして、この世を去る。
- 榊林蒼太 (にればやしそ) 45歳 榊林家の長男。スカーレットバルーン社の取締役副社長。三人の息子は全て母親が違い、ギャング好きである。
- 榊林黄貴 (にればやしこうき) 42歳 榊林家の次男。スカーレットバルーン社の取締役総務部長。女好きで、社内恋愛の噂が絶えない。独身である。
- 榊林茜 (にればやしあかね) 40歳 榊林家の長女。スカーレットバルーン社のデザイン部長。負けず嫌いの派手好きで消費癖がある。
- 及川緑輔 (おいかわりよくすけ) 38歳 榊林家の三男。及川家の養子である。できちゃった婚が原因で榊林家とは絶縁状態にある。
- 及川ちえみ (おいかわちえみ) 36歳 緑輔の妻。保育士だが、現在産休中である。生後四ヶ月の娘の名前は、絹代 (きぬよ)。
- 新井 (あらい) 45歳 榊林欽子の顧問弁護士。榊林家の遺産相続の件を任された。
- 松田 (まつだ) 40歳 遺産相続の話し合いを記録する立会人。
- 榊林佐吉 (にればやしさきち) 欽子の夫で貿易商をしていたが、40歳の若さでこの世を去る。

## 〈あらすじ〉

世界的なブランド会社「スカーレットバルーン」の創始者、榊林欽子が、78歳にしてこの世を去った。その遺産相続をめぐる、死去一週間後、榊林の一族が仙台市にある榊林宅に集まった。

長男蒼太は、スカーレットバルーン社の副社長、次男黄貴は、同社総務部長、長女茜は、同社デザイン部長。しかし三男緑輔は、一年前「できちゃった婚」と養子になったことから、蒼太に勘当され、この会合には来なかった。

立会人が見守る中、顧問弁護士により遺言状が読まれる。内容は、欽子が残したハードディスクレコーダーを再生させた者に全ての権限を委ねるといふもの。しかし、再生させるには、「八時間以内に生涯で一度しか発しない言葉」を音声認知させなければいけない。

「生涯で一度」のキーワードを求め、試行錯誤する三人兄弟。古今東西をしたり、死語を言い合ったり、母の発した言葉を思い出したり…。

様々な言葉、思い出が飛び交う中、それぞれの緑輔に対する悪行が浮き彫りにされていく。緑輔はなぜ勘当されたのか、緑輔はなぜ養子になったのか、そして、緑輔はなぜ母の葬式に来なかったのか…。

キーワードを見つけれないまま、タイムリミットが迫る中、緑輔が妻のちえみ、娘の絹代と訪れ、ハードディスクの再生に成功する。

再生されたハードディスクからの母の言葉を聞いた兄弟は、それぞれの罪を認め、改心する。

※コメディタッチのドラマです。